



みなみいず 町議会だより

No. **55**号

2013年
平成25. 11. 15

発行／南伊豆町議会 編集／議会広報編集委員会 〒415-0392 静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂315-1 TEL0558(62)6240
E-mail: gikaij@town.minamiizu.shizuoka.jp



石廊崎参観灯台（海の安全を見守っています）

9月定例会を9月5日・9月24日まで20日間の会期で開催しました。

- 主な内容
- 第2回臨時会……………2
 - 一般会計・特別会計・水道事業会計決算概要 ……3～5
 - 審議中にあった質疑又は意見要望事項 ……6～13
 - 一般質問……………14～19
 - 議会一口メモ、くろ潮 ……20

第2回臨時会

第2回臨時会は8月26日に招集され、正副議長の選挙、常任委員長などの議会人事を決めました。

議 会 構 成

◎は委員長 ○は副委員長

議 長 稲 葉 勝 男 副議長 長田美喜彦

■常任委員会

第1常任委員会

◎谷 正 ○加 畑 毅
吉川映治 清水清一 横嶋隆二
稲葉勝男

第2常任委員会

◎宮田和彦 ○長田美喜彦
齋籐 要 渡邊嘉郎 稲葉勝男

予算決算常任委員会

◎吉川映治 ○加 畑 毅
宮田和彦 谷 正 長田美喜彦
清水清一 齋籐 要 渡邊嘉郎
横嶋隆二

議会運営委員会

◎谷 正 ○吉川映治
加 畑 毅 宮田和彦 長田美喜彦

行財政改革特別委員会

◎清水清一 ○吉川映治
加 畑 毅 宮田和彦 谷 正
長田美喜彦 稲葉勝男 齋籐 要
渡邊嘉郎 横嶋隆二

議会改革調査特別委員会

◎長田美喜彦 ○宮田和彦
加 畑 毅 吉川映治 谷 正
稲葉勝男 清水清一 齋籐 要
渡邊嘉郎 横嶋隆二

共立湊病院跡地利活用調査特別委員会

◎谷 正 ○加 畑 毅
宮田和彦 吉川映治 長田美喜彦
稲葉勝男 清水清一 齋籐 要
渡邊嘉郎 横嶋隆二

■一部事務組合議員

南豆衛星プラント組合議員

吉川映治 稲葉勝男 清水清一
齋籐 要 渡邊嘉郎

伊豆斎場組合議員

稲葉勝男 横嶋隆二

下田地区消防組合議員

加 畑 毅 宮田和彦

下田メディカルセンター組合議員

谷 正 長田美喜彦

■議員会（任意）

会 長 長田美喜彦
副会長 清水清一
理 事 吉川映治
監 事 齋籐 要 加 畑 毅
稲葉勝男

■議会広報編集委員会（任意）

◎長田美喜彦 ○谷 正 加 畑 毅
宮田和彦 吉川映治

平成25年度 9月定例会

一般会計・特別会計 補正予算可決

(国民健康保険・介護保険
後期高齢者医療・公共下水道事業
子浦漁業集落排水事業)

(全員賛成)

総額1億8,127万6千円！

■ 一般会計…………… 6,210万9千円

- 主な内容
- 未熟児養育医療補助費 …………… 120万円
 - 有害鳥獣等対策協議会補助金 …………… 110万円
 - 観光振興宣伝委託料 …………… 414万円
 - 蛇石区内2号線道路改良工事 …………… 1,100万円
 - 河川維持補修工事 …………… 283万円
 - 各小学校校内無線LAN設備工事 …… 227万3千円
 - 南伊豆中学校照明器具交換工事 …… 325万5千円

■ 特別会計…………… 1億1,916万7千円

- 主な内容
- 国民健康保険…………… 1億921万6千円
 - 介護保険 …………… 440万6千円
 - 後期高齢者医療 …………… 216万8千円
 - 公共下水道事業 …………… 37万7千円
 - 子浦漁業集落排水事業 …………… 300万円

① 人事案件

▼南伊豆町固定資産評価審査委員会委員の選任について

南伊豆町子浦80番地の1

藤田 仁郎 氏

全員賛成で可決

▼南伊豆町固定資産評価員の選任について

南伊豆町下賀茂560番地

小嶋 孝志 氏

全員賛成で可決

▼南伊豆町教育委員会委員の任命について

南伊豆町石廊崎289番地の3

小澤 義一 氏

全員賛成で可決

② 条例制定・改正

▼南伊豆町立小、中学校及び幼稚園設置条例の一

部を改正する条例

全員賛成で可決

③ 予算決算常任委員会審議

▼平成24年度南伊豆町一般会計・特別会計及び水道事業会計決算認定について

後期高齢者医療特別会計のみ賛成八、反対一、

他は全員賛成で可決

④ その他

▼備品購入契約について

(平成25年度 大規模地震対策等総合支援事業
可搬ポンプ付積載車購入)

全員賛成で可決

▼訴え提起前の和解について

全員賛成で可決

▼和解条項(案)の変更について

全員賛成で可決

▼財産の取得について

全員賛成で可決

平成24年度

一般会計・11特別会計・水道事業会計 決算認定される！

一般会計・特別会計・水道事業会計決算概要

(単位：千円)

会 計 区 分		歳 入	歳 出
一 般 会 計		4,514,899	4,215,260
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険	1,617,729	1,519,704
	介 護 保 険	1,005,784	991,308
	後 期 高 齢 者 医 療	107,306	106,234
	南 上 財 産 区	627	325
	南 崎 財 産 区	456	345
	三 坂 財 産 区	9,061	8,766
	土 地 取 得	29,833	1
	公 共 下 水 道 事 業	317,630	317,230
	子浦漁業集落排水事業	12,346	12,346
	中木漁業集落排水事業	12,796	12,796
	妻良漁業集落排水事業	16,886	16,886
水道事業	収 益 的 収 支	250,570	252,894
	基 本 的 収 支	92,281	185,568

審議中にあつた質疑又は意見要望事項

○予算決算

常任委員会

一般会計

第1款・議会費

第2款・総務費

第8款・消防費

第11款・公債費

第12款・予備費及び関連歳入について

連歳入について

問 正職員127名となっているが臨時職員は何人いるか。

答 教育委員会42名、町民課6名、産業観光課1名、総務課1名、健康福祉課7名、上下水道課2名、計59名です。

問 特別土地保有税について対象者は所有しているのか。

答 所有しております。今後、滞納整理を進めていきたい。

問 入湯税が減っている件。また、町たばこ税に関連し

て分煙の提案について。

答 たばこに関しては受動喫煙のこともありますが、基本的には禁煙ですが、全国的に見直しの雰囲気もありますので検討したいと考えます。

答 入湯税は免税対象者が46%ということもあり減額となっている。再度、精査を考えて修正も考えてみる。

問 財政力指数に関して今後どのようにしていきたいか。

答 町の財政力は上げていかなければならない。地熱エネルギーの活用、ワープステイ、杉並区との関係等も含めて町民が所得を上げていく環境をつくり、その中から税金を納めてもらうことは、どこの市町でも考えていることだと思います。

問 目標とする数値はいかがか。

答 理想は交付税に関して不交付団体になることであ

り、数値としては「1.0」が目標ですが、現実的には最初の目標は「0.4」として、そこから徐々に上げていきたいと思います。

問 「全国半島振興市町村協議会負担金」等に関連する

「一条く加増野線」について、首長会議等の中ではどのような状況になっているか。伊豆縦貫道に関するアクセス道路としての位置づけとなっているのか。「主要施策の成果説明書」P25に「備蓄非常食10,000食」とあるが、観光客や乳幼児に対するの粉ミルク等はどうか考えているか。また、「防災ヘリコプター運航連絡協議会負担金」に関して、ドクターヘリを含めた夜間ヘリの運航要望があります

が、この協議会の中で話は進んでいるのか、どのように考えているのか。

答 平成26年に「半島振興法」自体が失効しますので、全国半島振興市町村協議会

ではその延長を要望しています。現行の半島振興計画の中に、「一条く加増野線」として具体的に特定されておりませんが、「アクセス道路を整備する」といった記述はあります。今後、県で策定する振興計画の見直しに合わせて意見を出していきたいと思います。

答 「一条く加増野線」に関しては下田市とも協力して期成同盟会の発足を進めております。「一条く加増野線」が伊豆縦貫道のアクセス道路になっていくものだと考えております。国土交通省の考え方は、まずは伊豆縦貫道の第一期工事だということですが、期成同盟会での促進を行っていく予定です。

答 「備蓄非常食10,000食」の件ですが、平成26年から5年をかけて90,000食配備の予定です。消費期限の関係もありますので、毎年18,000食を上乗せしていけば備蓄90,000食

食を確保しておける計算になります。乳幼児に対しての粉ミルクに関しては現時点では用意しておりませんので、今後検討していきたいです。ヘリコプターに関しては、夜間運航の予定は現在ありません。検討はもちろんでありますが、周辺の住宅への騒音の問題もありますので関係諸団体などを含めて検討を続けたいと思います。

問 東北の震災以降、伊豆縦貫道路と「一条く加増野線」は「命の道」として位置づけるべきだと考える。町長の思いを再度聞かせてほしい。

答 「一条く加増野線」に関しては下田市とも検討している最中ですが、半島振興法を使うのか、過疎債を使うのか、いずれにしても期成同盟会をつくって進めていきたい。道路計画は着手してから完成まで10年程度くらいかかると思います

が、それでも早い方かなと
考えています。

問 伊豆縦貫道路と「一条
く加増野線」に関しては
「命の道」として促えるべ
きで、難しい問題があつて
も前に進めてほしい。

答 「一条く加増野線」は
確かに「命の道」であり、そ
の重要性は認識しておりま
す。国土強靱化計画の中の
予算を採すなどして、一日
も早く完成させたい。議会
の皆さんからも県議会議員、
国会議員の方々に働きかけ
てもらいたいと思います。

問 備蓄非常食については
無駄にならないよう、消費
期限切れ前に有効に使う方
法を考えてほしい。

答 現在、フェスタ等で消
費期限の近い備蓄非常食は
利用しています。今後、地
域自主防災にも投げかけて
無駄の無いように、利用し
ていこうと考えております。

問 土地利用の関連で、伊
豆急行(株)さんから寄附され
た一色の土地の件ですが、
いわゆる「虫食い状態」に

なっている土地であり、民
間企業への利用を勧めにく
い状況にあります。「虫食
い部分」を町が取得する考
えはないか。町土地利用指
導要綱は、現在のままで新
エネルギーなどの事業に対
応できているのか。

答 「虫食い部分」は伊豆
急行(株)が所有している時か
ら取得できずに、賃貸制約
にしていたものであり、南
伊豆町への寄附と同時に賃
貸契約を解消したものであ
ります。取得するにも相当
な費用がかかると予想され、
地権者がどれだけのいるのか
も調べておりません。検討
はしてみます。

答 過去には、ゴルフ場等
の開発が賑やかだったが、
現在では風力や地熱を含む
自然エネルギーでの利用や、
震災関連の津波対策につい
ても土地利用が検討される
時代になりました。国や県
の動向を見ながら作り変え
ていく必要があるのではな
いかと考えます。

問 土地利用のプロジェクト
チームで一色等の町所有
地の利用方法を検討して

たらいいのではないか。
答 具体的な提案が企業側
からあつて、無償でも町の
ためになるのなら利用して
もらつても良いと考えます。

問 石廊崎の件、杉並区特
養ホームの件、温泉地熱利
活用の件はどう考えるか。
共立湊病院跡地の件で土地
の鑑定士が入ったと聞いた
が、取得についてはどう考
えるか。

答 石廊崎の件は議会の協
力もあつて取得に向かつて
います。杉並区の件は静岡
県の担当者と一緒に陳情に
伺います。全国的にも注目
されている案件です。温泉
地熱利活用については今月
16日から座談会を開催して
町民の皆さんの意見のヒヤ
リングを開始します。共立
湊病院跡地の件は鑑定結果
を待つて買い取りの方向で
考えていきたいと思ひます。
価格については共有所有者
の市町の首長さんたちの考
えもありますので、皆さん
にも情報公開しながら進め
ていきたいと思ひます。

問 「庁舎駐車場整理協力

金」について、職員から毎
月1,000円集めているが、
この職員専用駐車場は借地
か。また、年間の使用料は
いくらになるのか。

答 この駐車場は職員専用
ではありません。イベント
等があつた時には開放して
います。使用料は年間で100
万円ちょっとです。

問 石廊崎の問題ですが昨
日議決したのですが、議決
の日が仮契約日となるのか、
日付の無いものは契約と見
なされないと思うのだが、
これからのスケジュールは
どのようになっているのか。

答 まず昨日議決しました
のは「和解案」ということ
ですので、これを持って契
約締結とはなりません。今
後、裁判所で正式に決めて
いくことになりましたが、こ
れから仮契約を締結し財産
取得の議決となります。ス
ケジュールとしては法規制
のこともありますので、工
事の開始までには2年から
3年かかるのではないかと
考えます。測量作業自体
は終わっております。

問 「下田警察署管内防犯協
議会負担金」についてです
が、巡回車両である、いわ
ゆる「青パト」のある市町
と無い市町があるとのこと
ですが、南伊豆町はどのよ
うになっているか。

答 管内の市町については
把握していませんが、南伊
豆町に関しては1台準備し
てあります。

問 5台準備している市町
もあれば1台も準備してい
ない市町もあるようだが、
今後増やしていく予定はな
いか。

答 職員6名が「青パト」
運転の講習も受けておりま
すが、台数については出張
用の車両を「青パト」にす
るわけにもいかないので、
その点は今後調整していこ
うと考えます。

問 解体費用の入札最低制
限価格は設定されているの
か。

答 入札最低制限価格は設
定していません。今のところ
現状のままでいこうと思ひ
ますが、今後支障がある
ようなら検討したいと思ひ

ます。

問 岩崎産業との仮契約について、直前になって賃貸物件を含んでいたことが判明したわけが、これは町長自身認識していたのか。

答 認識はしていません。ただ、この問題に関しましては岩崎産業側で提示すべき問題であり、告知義務があるのは売主側にあると思います。

問 町税も減少している傾向にあるが、アベノミクスにおける消費税の増税に関して町長はどのように考えるか。

答 非常に大きな質問内容ですが、2020年の東京オリンピック開催も決まりまして、高揚感が出てきたのではないかと感じております。ただ、南伊豆町に関しては高齢化が進む中で労働人口も減少していくわけで、難しい問題があることは承知しております。消費税増税に関しては、社会保障費の確保のためにも致し方ないのかなと思います。

問 産業振興について町長はどう考えるか。規制緩和によって小さな商店は苦しまれている。

答 産業振興に関しましては、いわゆる「葉っぱビジネス」等で小さな町が大きな事業規模を生み出していることも承知しています。規制緩和という意味では「農地法」が足かせになってい

ることも感じておりますし、「漁業権」の問題もそうでしょうし、地方自治体がこういった規制を解決できるように働き掛けていきたいと思っております。南伊豆町は立地条件で、いわゆる「東海道筋」と比べて不利なこともありますので、規制緩和からチャンスを見い出すことも必要ではないかと思っております。

問 地熱に関する座談会の目的は何か。日程はどうなっているのか。

答 「地熱資源を活かした地域活性化対策」を目的として、住民の皆さんの意見を聴くのが内容です。日程は9月16日と17日に分野別に開催します。その後10月2

日に町民説明会を予定しています。町民説明会は、今後、広報にて告知していきます。

問 地熱に関する調査事業の主体は国なのか町なのか。

答 主体は国なのか町なのかという問題ではないと思います。国が予算を用意している中で申請を進めることが重要であって、原発の問題もあるので自前の自然エネルギーの活用は南伊豆町にとって重要であると考えます。ただ、町民の同意も必要ですので座談会を開催するわけで、100%リスクが無いという段階まで事を進めないのはいかがなものかと思えます。エネルギーというものは人が生活していく中で必要なもので、原発の怖さを考えても自然エネルギーの調査研究は必要だと考えます。町民の皆さんも議会の皆さんもやるなどというのであればやりませんが、そのような100%リスクの無い中でしか前に進まない行政運営を町民全体が望んでいるとは思えません。

問 「自然エネルギーの発電所」に関しては東京電力が行うことではないか。

答 調査は加納区でも産業総合研究所が行いました。東京電力がやるべきことは限らないと思います。

問 温泉地熱利活用の考え方を聞いておきたい。また、光ファイバーを含めたＩＴ企業誘致についての考え方を聞きたい。

答 温泉がわが町にとって大切な財産であること、旅館業の方々にとっても大切な宝物であることは重々承知しております。それも含めて慎重に判断していきたいです。ＩＴに関する光ファイバー設置に関しては2億円位の財政負担が必要であると記憶しています。他市町でも様々な取り組みをしておりますので、参考にしながら検討していきたいです。

問 先ほどから「地熱座談会」という言葉が出ていますが、名称が分からない。

いるのですが、「地熱資源を活かした地域活性化策を検討する座談会」となります。名称は「まちづくりに関する座談会」とし、地熱資源を活かしたまちづくりの座談会です。

問 「町税過誤納付金還付金」の内容は何か。

答 法人税予定納税が7件で576,800円、課税誤りが7件で144,400円、過誤納付が47件で892,600円であり、合計件数は61件です。

問 路線バスの補助事業について掲載してあるが、今後補助金額が下がらないのか、県と話しているのか、また会議は何回開催したのか。

答 過疎地については補助金の変更はございませんでした。「路線バス問題対策協議会」は昨年度1回開催です。昨年度から法律に従って「地域公共交通会議」となりました。違いは委員の中に運輸省・県の関係機関等が委員にならないかならなければなりません。

問 昨年開催された「地域公共交通会議」の内容は。

答 すでに昨年の9月補正予算の中で説明しておりますが、会長は町長になりませんが、委員が教育長、観光協会、商工会の局長、商工会女性部長、旧六ヶ村の区長、中部運輸局の静岡支局、土木事務所長、下田警察署長、南伊豆東海バスや静岡県タクシー協会等々、22名が構成委員になっております。



第3款・民生費
第4款・衛生費
第9款・教育費及び関連歳入について

問 「敬老金」の内容は。
答 80歳以上の方にお祝金

として2,000円渡しております。1,347名が対象で区を通じて間接的に渡しておりますが、こちらで個別に渡すケースもあります。

問 健康寿命についてどう思うか。

答 南伊豆町は健康面では良好だと思っている。社会保障費を減らす意味でも健康については重要なことだと思います。

問 ごみ処理に関する件。

ごみ袋の色がそれぞれの町によって違うのだが、黄色はガラスには見えない色という話を聞いた。わが町は緑色であるが黄色に変更してみてもどうか。また、ごみ袋の販売ルートはどうなっているか。焼却所へ持ち込んだ場合の清算で、町指定の袋に入れて持ち込んでも加算されてしまうシステムは改善できないか。

答 ごみ袋の色が緑色と黄色があるので、今後検討していきたいと考えます。ごみ袋に関しては商工会に全て委託しています。焼却

所へは指定ごみ袋に入れてこないように広報しております。

問 文化財保護審議会と町史編さん委員会について年間開催数と内容を聞きたい。

答 文化財保護審議会は昨年度1回の開催です。町史編さん委員会に関しては画像鑑定を進めている最中で、その中で「町指定」を行う方向です。

問 ふるさと学級と横浜交流事業について聞きたい。

答 ふるさと学級の件はカッターレース等を含めまして、横浜市との交流は機会があるたびに今後も活発に行っていきたいと考えます。

問 焼却施設補修工事について、4,900万円もする

工事を随時契約にするのは如何なものかと思うが、どのように考えているのか。
答 焼却施設の補修が随時契約となっているのは、業務内容や規模や稼働停止期間を最短にするため等、精通している業者でないと利

用者に迷惑をかけてしまうことが多いので今まで通りの随時契約がよろしいかと思ひます。

答 業務内容上、競走入札が適しないものは随時契約となるのは仕方ないことであり、検討はしてみますが来年度についてもこの形で進めたいと考えています。

問 男女共同参画事業についての話題が先ほどから出ているが、今後は女性の課長職登用も考えているのか。

答 考えています。女性の特徴を活かした点での業務向上もあるかと思ひます。

問 社会福祉費について、在宅食事サービスについては杉並区と進めている施設とも協力して、旧共立湊病院の調理室を利用してみてはどうか。

答 在宅食事サービスが好評であることは聞いております。今後、町所有の使用していない施設の調理室利用を検討したいと考えます。

問 下田メディカルセンターの利用促進の広報活動

を町として行うべきだと思うが。

答 下田メディカルセンター自身でも広報活動を行っておりますので、町としての協力も検討していきたいと思ひます。

問 「予防費」中の子宮頸がんワクチン接種について、何人位が利用したのか。また不育治療の助成金を考えているか。

答 子宮頸がんワクチンについては対象者の74%の人が接種しております。任意接種となっておりますが、後遺症については現在確認されておりません。たたりスクがあることは事前に説明してあります。不育についてはまだ詳細を聞いておりませんので今後検討してみます。

問 正規一般職員と臨時職員の人数を教えてください。

答 南崎保育所は正規職員4名、臨時保育士3名、臨時調理員1名、正規調理員1名となっております。認定こども園については正規一般職員12名、臨時保育士

8名、臨時教諭が2名、正規調理員2名、非常勤の園長が1名となっております。

問 臨時職員と正規職員で給与金額にかなりの差がある。同じ労働内容なら同じ賃金にするべきではないか。
答 気持ちは理解できなくもないので、なるべく差が無くなるように検討していきたいと思います。

問 「住宅用太陽光発電システム設置費用補助金」について、何件分の金額ですか。
答 15件分で12月に補正したものも含みます。

問 「予防費」中の肺炎球菌ワクチンの接種率が低いので、広報活動をしてみてはどうか。また、前立腺がんの受診についても行っている市町もありますが、わが町ではどう考えるか。
答 肺炎球菌ワクチンについては平成22年度からの実施なので、接種率がまだまだなのかも知れませんが、今後広報を進めていきたいです。

答 前立腺がんについては

厚生省がすすめる検診項目には入っていませんので、今のところは町でも考えておりません。

問 「放課後児童クラブ対策費」の評価はどのようなのか。
答 「放課後児童クラブ対策費」は南中小学校の空き教室を利用して実施しているもので、昨年度の利用者は6,087名。夏休みも実施しているの、教育委員会からも1名派遣しました。

問 各小学校の利用者人数はどうなっているのか。南伊豆東小学校での実施は考えていないか。

答 現在の利用者から考えると、南伊豆東小学校での実施は難しいです。ただし、運営しているNPO法人の職員確保ができるなら可能かもしれません。

答 各小学校の利用者数は南中小学校が4,027人で約66%、南伊豆東小学校が1,155人で約19%、南上小学校が905人で約15%、三浜小学校の利用者はございません。平成24年の登録された人数は、南中小学校が

22人、南伊豆東小学校が5人、南上小学校が4人となっております。



第5款・農林水産業費 第6款・商工費及びその 関連歳入について

問 「農地情報管理システム保守業務委託料」について荒廃農地の様子等が判れば、内容を聞きたい。

答 正確な数字は分かりませんが荒廃農地は約40%だと記憶しております。詳細な調査もこのシステムによってできます。農業委員会に提出される書類もできますので有効活用をさせてもらっています。

問 「古体験農園管理業務

委託料」について、利用者人数に對しての経費がかかり過ぎではないか。年間に入ってくる利用料82,290円に對して、118万円の経費をかけるのは如何なものか。
答 利用料に對しての経費という見方ですと議員のおっしゃる通りですが、管理全般の維持費となるとこれくらいはかかってしまうので、やむを得ないと考えます。

問 「林道青野八木山線埋木調査委託料」についてですが、工事の進捗状況はいかがか。遅れているように聞いているが。

答 この工事自体の進みは確かに遅れております。全体計画で7,600mですが松崎町側で2,504m、南伊豆町側で881mということで、だいぶ遅れております。

問 「水質検査等手数料」に関してですが、年間にどのくらいの頻度で検査しているのか。また、放射能検査も含めてシーズン前に検査できないのか。

答 年に3回検査を実施し

ています。6・7・8月の3回です。9月にOWSの大会もあるので8月も検査をしております。

問 「駿河湾海上交通活性化協議会負担金」に関してですが、フェリー航路を県道223号線として川勝知事が指定したことで利用客数が増えたようだが、これについて町との関連性があるのか聞きたい。

答 修学旅行や体験学習等での利用促進を行ってきたいと考えております。

問 2020年の東京オリンピック開催が決定したわけだが、これをどのようにわが町の観光に結び付けていくかが重要と考える。夏の忙しい時期での開催になるが、全国にアピールできるチャンスだと思う。町長はどう考えるか。

答 7年後のオリンピック開催までにどのように活動していくかが重要だと考えます。南伊豆町の経済や活性化にどうやって関連付けるか考えていきたいと思っています。外国選手も含めて練

習場所が用意できるなら、整備も含めて検討したいですし、町民の皆さんの知恵をお借りしながら、新しい活性化の方法を模索していきたいです。

問 各協議会への負担金があるわけですが、会議の回数も含めてこの内容を教えてください。

答 県観光旅館労務対策協議会については平成24年度で解散しましたので、今後の負担金はありません。夏季対策事業負担金は夏季シーズンにおける子浦・弓ヶ浜・落居の地区に対して夏季の対策事業費を負担しております。落居に関しましては仮設トイレを設置しておりますので、その負担金を2分の1出しています。子浦に関しましては海岸の清掃費を出しております。弓ヶ浜に関しましてはライフセーバーの配置にかかる経費を町で負担しております。県大型キャンペーン負担金は県の観光協会に対する負担金です。伊豆早春フラワーウォーキング負担金については、毎年1月から4月ま

で開催している大会に負担しています。伊豆半島花とてくもぐウォーキング負担金は、伊豆急行との共同開催でのウォーキング大会に負担しています。伊豆観光推進協議会負担金は熱海市・伊東市から始まりまして南伊豆町までの東海岸地区の観光協会等に負担しているもので、インバウンド事業を中心に事業を進めております。県観光協会負担金は県大型キャンペーン負担金と同様に世界に向けてのPRに使用するもの。町、伊豆急、東海バス共同宣言事業負担金は、関連する企業団体をフルに活用して宣伝していくための負担金です。全国観光地所在町村協議会負担金は、全国の観光地を集めてPRしていくという内容の負担金です。南伊豆歩道運営協議会負担金は松崎町から下田市までの県の遊歩道の整備のための負担金です。伊豆急共同宣言事業負担金は伊豆急下田駅での宣伝に対しての負担金です。駿河湾海上交通活性化協議会負担金は県道223号の海上交通活性化に対する

負担金です。中部ブロック「道の駅」連絡会負担金は、該当地区の首長さんが集まりまして、道の駅をより良いものにするための利活用を考える場への負担金です。事務局は名古屋にあります。伊豆観光圏整備推進事業費負担金は、伊豆観光推進協議会とは別枠で県や国の観光推進事業を企画する組織への負担金で、伊東市から南伊豆町までの東海岸地区の企業団体で構成されています。伊豆半島ジオパーク認定事業負担金は、昨年認定された伊豆半島ジオパークでの事業への負担金です。インバウンド事業負担金は「伊豆東海岸国際観光モデル地区」というインバウンド専門の会を作りまして活動しております。そこへの負担金です。

問 今聞いていると同じような意味合いの負担金があり、もっとスリム化できないのか。

答 かつて一般質問の中で議員から協議会の整理について聞かれた記憶があります。似ているようで内容が違うものがありますし、わが町が他市町を取り込んでいるわけでもないのに南伊豆町だけの判断でどうこうできるものではありません。わが町に適さないものについては脱会等の整理は進めておりますのでご理解願います。

問 「有害鳥獣対策調査」について結果を聞きたい。

答 環境アセスメントセンターに業務委託しました。調査期間は平成24年9月から平成25年3月までとし、内容は資料調査とカメラ調査で他市町の事例もアンケート調査を行いました。町内の精肉店への需要調査も行いました。焼却方法の調査も行いましたが、山林等への任意の廃棄に関しましては、毛皮・足・胴体等を細分化することでの処理が可能になっているということです。特定場所の廃棄場所に関しましては周辺に家が無い所、水源等に影響が無い所、人目のつきにくい所、また構造にすることが望ましい。焼却炉の導入についてはなかなか経費的にも厳しいのではないかと思います。利活用の関係では食肉加工施設の導入に関しては課題が多く厳しいということです。

問 調査結果に基づいて進めていくということでしょうか。

答 年間700頭の猪に鹿の数

が加わるので、そのままでの山林放置というのでは環境衛生的にも如何なものかと考えますので、町の産業観光課だけでは対応できません。「有害鳥獣等対策協議会」で対応していきたいと思っています。

問 各観光関係協議会への負担金の効果は出ているのかどうか。

答 今の時代はインターネットによる予約が多くなっておりますので、どれだけ効果が出ているのかを数値化するのには難しいですが、宿泊施設に聞き取り調査を行って把握していく以外は方法が無いように思います。入場料等から計算していく方法もあるかと思いますが、今後検討していきます。

問 これだけ多額の負担金をかけて他の観光地へお客さんが流れているのでは意味がない。これだけけたら効果を数値で把握できるようにしてほしい。

答 おっしゃることは理解できます。新年度に向けて

産業観光課で新しい方法も考えているようです。マーケットリサーチも含めて今後の課題とさせていただきます。時間はかかるかもしれませんが、ご理解願います。

問 「林業振興費」の関連で「森の力再生事業」の見通しを聞きたい。事業の継続のためにも木材の活用や業者の育成も必要ではないか。

答 今までの実績で「森の力再生事業」は平成18年度から平成23年度まで213ha実施、平成24年度に南伊豆町内において18.17haの実施となっております。今後も同様に進めていけると思いますが

答 森林の整備は海の保全にも繋がることなので、その重要性は大切なことだと思えます。かつて木炭の生産が行われていた頃のように森林の整備が進んでいない状況なので、林業関係者への助成を含めて検討していきます。

問 「ユウスゲ公園改修計画

策定業務委託料」と「ユウスゲ公園管理委託料」があるが、遊歩道の草刈りはどちらに含まれているのか。また、草刈は年に何回実施しているか。

答 遊歩道の草刈りは、「ユウスゲ公園管理委託料」に入っております。年に2回実施でシルバー人材センターに委託しています。

問 利子補給についての利用者についての状況を聞きたい。

答 小口資金の融資で61業者、件数で128件、金額で2,480,914円を実施しました。短期経営改善資金についての利子補給利用者は1業者の利用があり、33,332円の実施でした。災害対策貸付金での経済変動対策に関しましては12業者、件数で23件、金額で1,821,001円の利子補給を実施しました。その中の中小企業災害対策利子補給にしましては、12業者、件数で24件、金額で1,933,868円、トータルで3,754,869円の利子補給となりました。

第7款・土木費 第10款・災害復旧費及び関連歳入について

問 「伊豆縦貫道期成同盟会」について、平成24年度までの具体的な状況を聞きたい。進捗状況によつてはアクセス道路としての「一条く加増野線」の話を進めるべきではないか。

答 設立時期は10月下旬の予定で、規約については南伊豆町案を作成している最中です。

問 「民間建築物吹付けアスベスト対策事業費補助金」について、平成24年度の状況を聞きたい。今後も補助金は発生するのか。

答 アスベストの関連は昨年1件ございました。場所は湊のコミュニティーでした。

問 「橋梁長寿命化修繕計画策定委託料」について、成果品はどのようなものか。

今までの50年の耐用年数だったものが、技術の進歩で100年になったとの報道もあった。これを踏まえて町も計画しているが、どのように

考えているか。
答 県の基準を踏まえて作成した計画です。概ね5年を目途に見直しになりますので、その計画に沿って進めていきます。

問 現在の政権与党が進めている「国土強靱化計画」と2020年の東京オリンピック開催も重なり、見直しが図られるタイミングがあると思う。わが町として民間業者に調査依頼してでも、橋梁に関して調査を進めるべきではないか。

答 現在の技術は日進月歩であり、カーボンファイバー繊維を建築資材に使用するなど、その強度は今までには考えられないほどの進歩をしています。時期を見て計画を見直していくことも必要だと考えます。

問 「急傾斜地崩壊防止事業」について進捗状況は、どのようなになっているか。

答 大瀬は平成24年度で完了しました。現在進んでいる急傾斜事業は青市で1件です。

特別会計

1、議第55号

・平成24年度南伊豆町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

議第56号

・平成24年度南伊豆町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について

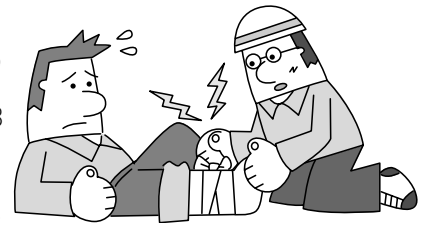
議第57号

・平成24年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

問 国民健康保険について1985年に45%を国が負担

問 町全体の高齢化によって若い世代の作業負担が増えているが、その若手が作業時に怪我をした時には、どの範囲までの保障を考えているのか。一家の働き手である人が怪我をして1年も2年も仕事ができない状態になったら、たいへん困るので生活まで保障してくれるのか。

答 保険については自治会活動保険をかけております。



担していたものを38.5%に引き下げたことで、被保険者の負担が増加した。その結果、財政状況は年々悪化の一途をたどっているような状況に陥ってしまった。今後の首長会議にどのような姿勢で臨むのか。

答 確かに国民健康保険が大変厳しい状況で運営していることは承知しております。社会保障費に関しても年々増加しております。そんな中で消費税アップもありますので、町としても対策を考えておかなければならないと思っております。

問 弓ヶ浜の特別養護施設の進捗状況は。

答 杉並区、静岡県、南伊豆町の三者で実現に向けて粛々と取り組んでおり、国

への法改正も含めて要望活動も進めております。

問 介護保険の滞納や徴収不能が毎年掲載されているが、どのような方法で徴収しているのか。

答 国民健康保険にしましては、臨宅徴収や滞納整理機構の文書通知の方法で滞納対策をしております。

答 介護保険については、年金受給者から年金から引かせてもらう方法で徴収しております。65歳到達者等については普通徴収による方法があります。

2、議第58号

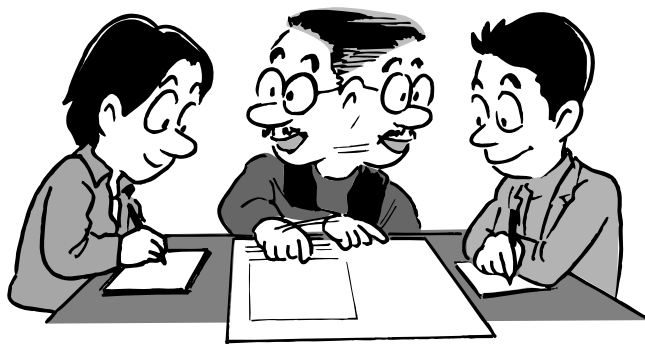
・平成24年度南伊豆町南上財産区特別会計歳入歳出決算認定について

議第59号

・平成24年度南伊豆町南崎財産区特別会計歳入歳出決算認定について

議第60号

・平成24年度 南伊豆町三坂財産区特別会計歳入歳出決算認定について



議第61号

・平成24年度南伊豆町土地取得特別会計歳入歳出決算認定について

質問は特になかった。

3、議第62号

・平成24年度南伊豆町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について

問 公共下水道未収金については。

答 未収金の徴収、加入率の促進ともに進めていきます。

議第63号

・平成24年度南伊豆町子浦漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について

議第64号

・平成24年度南伊豆町中木漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について

議第65号

・平成24年度南伊豆町妻良漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について

質問は特になかった。

水道事業会計

4、議第66号

・平成24年度 南伊豆町水道事業会計決算認定について

問 石綿管の敷設状況はどうなっているか。

答 下賀茂の一部には石綿管が残っている地区があります。下水道の工事と並行して取り替えていく予定です。

● 一般質問

町長に聞きました



宮田 和彦 議員

自然エネルギーを活用した 災害に強い町づくりについて

質問 東日本大震災では様々なライフラインが広範囲に、停止し大規模災害時

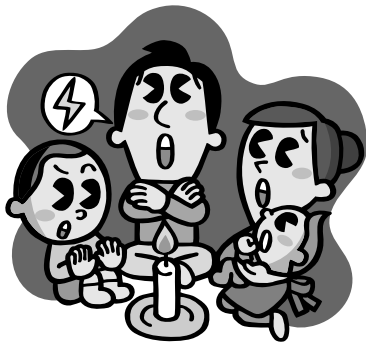
のエネルギー供給体制の脆弱性が露呈した。

今後予想される東海・東

南海地震等を初め日本各地で発生した記録的な豪雨による洪水・土石流、天候の急変による竜巻等々、自然災害に対する備えが必要だ。

現在、使用している電気

の発電燃料は、自然再生エネルギーを除けば、石油、石炭・液化天然ガス等、殆どを海外からの輸入に依存



し、本町においても災害等の自然災害だけではなく、政治的な理由から供給が滞る可能性があることから、エネルギーセキュリティの視点も不可欠な要素と考えられる。

このような背景から、自然再生エネルギーや従来型のエネルギー、それぞれの長所を活かし多様化を図り、徐々に自然再生エネルギーの比率を上げ、自立・地産地消型エネルギーの推進により災害に強く、いかなる時も町民への安定供給を実現すると同時に低炭素社会を戦略的発想を持って目指す考えはないか。

町長 町では住宅用太陽光発電システム設置補助金制度の導入や認定こども園、



小中学校等公共施設のソーラーパネル設置の推進、道の駅への電気自動車の充電施設の設置、さらには現在、地熱発電に関する取り組みも検討しているなど、少しずつではありますが、低炭素社会の実現に向けて努力しているところです。

7月18日未明西伊豆町で発生した洪水・土石流では、町民・各団体・町職員等多数の方々が災害ボランティア活動に参加したと聞いた。猛暑の中、大変ご苦労様でした。そんな中、7月27日我々議員有志6名も岩手県陸前高田市に続き「伊豆は一つ」との考えから災害ボランティア活動に参加させて頂きました。全国の災害に遭われた市町村の一日も早い復興を、お祈りします。

町民交流活動 促進について

質問 10年後の町の人口は約7,000人台になる。

地区活動等にも、困難を生じる事も考えられ、限界集落地区等も増えてくると思われる。そこで、交流活動の一環として、河川の草刈等、公共・公益的な目的で行う地域活動を町の広報・携帯端末等を利用して町民に情報提供し、人手不足を補うと共に自助・共助・公助、「近助」の啓発を図る考えはないか。

町長 各区が連携し合いお互いの区を助け合う形で検討後、行政連絡委員会で検討させて頂きます。

投票率の 向上について

質問 移動投票所・投票所増設について

町長 選挙管理委員会へ検討して頂く様依頼しました。

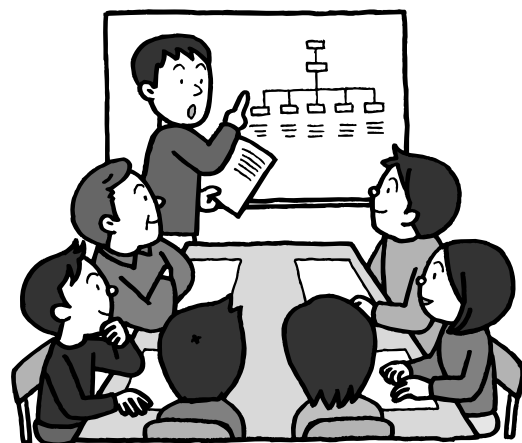


加 畑 毅 議員

温泉地熱調査の継続と 地域活性化座談会のすすめ方

質問 7月27日に役場湯けむりホールで地熱調査結果報告の住民説明会が開催されたが、この調査は環境省の委託研究事業であり、継

続申請すれば今後の調査も補助金で継続できると聞いている。次の段階に進むためには10月中旬までに補助金の申請を行わなければならない。今後のスケジュールはどうなっているか。



町長 今後のスケジュールは、10月中旬までに温泉関係者・旅館組合・商工業者・観光業者・農業者・関係区民等、分野ごとに座談

会等を行いながら10月初旬の全体説明会につなげていきたい。また、補助金は認められても、試掘までにはいろいろな調査が必要であり、実際に試掘が行われるのは大体3年程度後のことだと考えています。その期間にも十分な議論ができるので、メリット・デメリットを考

えながら皆さんと議論をしていく予定です。

質問 この中で最も大事なことは、ワークショップを多数開催していくという町長の方針だと思う。私が思うのは、町の推進力を高める可能性はあるものに対して、やるべきことをやらないで判断してしまうことは的確ではないということ。地熱を利用してまちづくりに活かしていけるかどうか。ここが重要だと思う。誤解されたままリスクの部分だけがクローズアップされていく展開になることが心配だが、その点はどう考えるか。

町長 最終的な目標はまちづくりです。エネルギーを集中型から分散型へ移行していくという国の施策が



るそうです。こういうことを含めながら検討していかなければならないとおっております。

質問 国の自然再生エネルギー推進の方針は、3・11の東北震災以来、原子力発電所の今後の存在を勘案して、国を挙げてその方向に進んでいると考える。南伊豆町議会としても浜岡原発の再稼働に反対の意見書を出していることもあり、

自前のエネルギーを確保しておくことの重要性を認識しなければならぬ。町民の皆さんの十分な理解を得るまでは時間がかかるかもしれないが、民間の意見を聞きながら、ワークショップ方式を活かして、今後の南伊豆町の新しい方向性を見出してもらいたい。

防災対策としての 山林整備の推進

南伊豆町の PR映像作成について

※質問し、回答があった。



吉川 映治 議員

「南伊豆町」と「各地区自治防災会」及び「町災害ボランティアネットワークの会」との連携について。

質問 現町長の下で「町自主防災会災害時相互応援協定書」を新たに策定し、各地区と契約し直す意志はあるか。

町長 現協定書は、充分に検討された内容です。今後の課題とさせて下さい。

質問 各地区で避難所を把握し、リストを作成、各地区防災会長に手渡す事が、第二条「避難所となり得る施設等の提供」の主旨だと思

うが。

防災室長 強制ではなく、有事の際に各地区の友愛的精神に基づいた規定であると認識しています。

質問 各地区ごと、どれ程の食料・飲料水の備蓄に努力しているか。

防災室長 正確な把握はしていませんが、「自主防災補助金」を積極的に活用していただく様、お願いしてお

ります。

質問 「自主防災補助金」の利用実績は。

防災室長 平成25年度今日現在7件で77万6千円の利用がありました。

質問 「町災害ボランティアネットワークの会」(以下「災ボラ」)を独立した組織として、町から認めていただきたいが。

町長 今後の支援活動に支障を及ぼす恐れがあれば、社協を交えて検討して参ります。

質問 「災ボラ」の会員増強・円滑なる運営のため、積極的に町職員の加入を望むが。

町長 町職員が「災ボラ」の会員になるのは難しいですが、勉強会や研修会を共同で行い、平常時から連携を図って行く事は可能であると考えます。

質問 今南伊豆町内で災害が発生したら、町及び社協

が備えている資機材では、絶体的に足りないが。

町長 確かに防災資機材を全て用意するのは難しい事です。徐々に増していく事で、解決して行きたいと思っています。



「認定こども園」の社会的役割について

質問 平成24年4月の開園以来、南伊豆町内で大いに改善された点、そして改善されつつある点を教えてください。

教育長 南伊豆町の子育て支援及び幼児教育の拠点施設としての存在意義が考え

られます。又、子供達の社会性・活動の充実が見込まれる事や、保育園児として幼稚園教育が受けられる事も揚げられます。

質問 再度、土曜日の一日保育についての検討結果を聞きたいが。

教育長 現状維持の体制では厳しいです。さらに関係部局と協議を重ね、検討して参ります。

質問 保育士の新規採用は、正規雇用を前提に考えるべきではないか。又、今の非正規雇用者を正規雇用者へ率先して受け入れていくべきと思うが。

教育長 サービス面や人材の確保から考えると、正規職員を増やす事は必要と考えます。町の財政・定員管理の側面から総合的に勘案して、検討して参ります。

総務課長 現在進行している少子化問題と保育所の定員の問題等を総合的に判断して、検討して参ります。



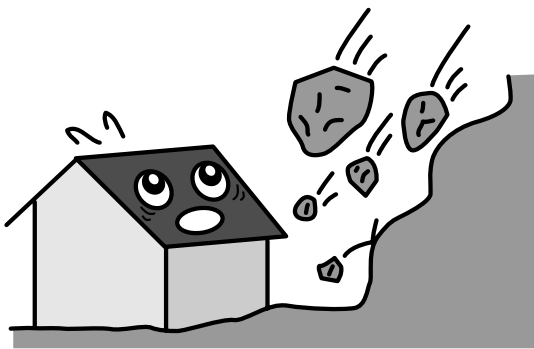
谷 正 議員

第四次被害想定と 防災(災害)・減災対策について

質問 平成25年度6月27日
発表の静岡県第四次被害想
定(第一次報告)について

町長 国・県の想定、基本
方針に基づき、防災計画の
修正、アクションプログラ
ム2013の作成並びに達
成に向けて、国・県の大規
模災害対策助成事業等を有
効活用しながら対応してい
く。南伊豆町の防災・減災
については、人的被害を減
らす鍵である自助、共助、
近助を周知させ、各地域に
即した対策を進めていく。
総合防災を考えたときには、
総合計画の見直しも出てく

質問 第四次被害想定と急
傾斜崩壊危険区域について



建設課長 町の単独事業で
はなく、要望し採択してい
ただく事業なので、該当箇
所、県とのやり取りは全く
なく、把握もしていない。

質問 第四次被害想定と橋
梁寿命化計画について

副町長 橋梁の長寿命化は
持続可能な自治体経営の側
面から重要なことである。
具体的な被害想定等が出た
ので、若干の見直しの可能
性は認識している。財政的
な面から極力平準化してい
く。

町長 機会を逃さず、国・
県への情報共有等をお願い
し、安全・安心の確保に努
める。

質問 地籍調査整備事業(仮
称)等について

町長 静岡県内35市町の内、
未着手は南伊豆町を含め5
市町である。地籍調査の必
要性、有効性は十分理解し
ているが、長期にわたる財
政的、人員的負担や所有者

同士のトラブルの問題等、
多くの時間と労力等が必要
となることが懸念される。
発生が懸念されている南海
トラフ、巨大地震等の災害
復旧等に非常に有効である。
国の基本調査には速やかに
着手していく。

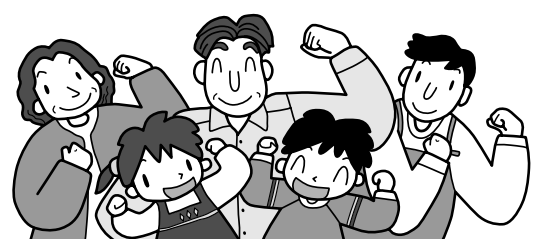
少子化・人口増 対策について

質問 少子化・人口増対策
はどのような考え、施策が
必要と考えているか。

町長 第五次南伊豆町総合
計画を基本として、保健・
医療・福祉の充実、観光、
農林漁業・商工業の振興、
子供を育む教育の充実、安全・
安心に暮らせるまちづくり
等、総合的なまちづくりを
推進する。

質問 南伊豆町独自の少子
化・人口増の考えは。

町長 中学校までの子供医
療費の無料化、出産祝い金
や特定不妊治療費の助成、
移住交流セミナーの実施、
南伊豆婚活事業、都市部の



元気な高齢者を一定期間受
け入れるワープステイ構想
や熱資源の開発等でまちづ
くりの方向を考える。

質問 国や静岡県の施策の
前取りの考えは。

町長 財政的を勘案すると
非常に難しい問題であるの
で、先進事例をみながら検
討する。

副町長 園外保育等、有効
性は認識している。固定的
な経費については出来るだ
けかけたくない。他の経済
的な波及効果がある子育て
世代への助成制度等、ベス
トミックスの中で考える。



横嶋 隆二 議員

地熱発電事業の問題点

質問 三井不動産と既に地熱発電の事業助成申請準備を進めているというが、手続・予算など経過は。

町長 環境省事業の温泉共生型地熱貯留層管理システム実証研究が平成24年度末終了し、新年度5月11日加納区で事業者から報告会が開催された。そこで町の今後の方向性について報告要望があり、7月27日地熱資源を活かした地域活性化を図ることを目的とし、南野山深部の調査を提案した。三井不動産は補助金申請まで400万円から500万円掛るも

のを手弁当でやる提案がありやることにした。3年後に堀削が始まるまでに地熱理解・堀削に関する危険性を含め議論をする。

質問 非常に重大な問題。

議会には7月24日の全員協議会で事後報告。企業が見返りなしにやることは考え難い。補助金は発電を目的とした地熱資源開発事業計画立案が前提であり、5月11日の加納区での最終報告とギャップがある。新事業に入る手続の問題で一切議会・委員会に三井不動産の話も出てない。住民・議会

に対する背信行為。三井不動産に頼んだ経過は。

町長 三井不動産が手弁当でやってくれ良いことではないか。私達が頼んだわけではない。そのまま事業者決定する話でもない。何もやるなということか。

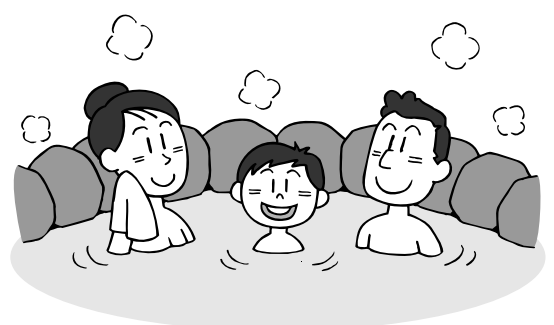
質問 地熱発電の問題がいかに温泉に影響するか住民は懸念を持っている。全国で温泉が枯渇した事例が日本温泉協会の報告にある。補助事業申請に取組む前に、議会での検証、地元住民への理解を自らの力でやるべきだ。



町長 そのとおりです。補助金申請まで十分座談会を開き最終的説明会もやる。

質問 全員協議会で東電設計から紹介されたと言った。下賀茂温泉調査では、火山性熱源ではなく、同一熱水型、熱水滲出型のどちらかで、どちらも温泉に影響する可能性があるという。下賀茂の温泉ホテルで涌出量が減った為、手を加えたら保健所の指導があった程厳しく、温泉管理がされている。室町時代から温泉を大事に守り、文人墨客を呼び、南伊豆下賀茂温泉の名を全国にはせてきた温泉旅館が厳しい経済状況の中、営みを続けている。旅館等含めいままで温泉管理を続けてきた住民が心配、不安にかけられないわけではない。町長が選挙で言った「私たちの住む町あなたとつくる町」は「企業とつくる町」か住民の皆さんと手を携えて一緒に考えていくべきではないか。

24年10月29日当時の新工ネルギー委員長から秘密資



料が出された。既に南野山稜線上に発電所と道路の位置まで出ている。補助金申請の期日を決めて、それを前提にして既成事実の積み上げをしている。ストップすべきだ。

町長 町は財政力が弱く資本が必要。企業が手弁当で提案があったため、町民同意・温泉権利者の同意が得られれば、考えたい。下賀茂温泉の温度低下・湯量減少問題は別に原因があると考える。住民合意が得られないと判断した場合は、これはやはりやめるべきだと考えている。



清水 清一 議員

町内のインフラ整備

質問 国県町道等この生活に大切な道路を町として今後どう整備していくのか。

点検等長寿命化の計画等は。

町長 平成26年度から修繕を計画的に実施したい。

町長 7月に県知事以下7名に道路整備等、狹隘箇所解消の要望活動をした。市之瀬、蛇石に道路整備事業として5カ所の退避所設置のため測量、用地買収に着手している。

質問 上水道、簡易水道の水道管の更新の考えは。

上下水道課長 経年管の整備及び石綿セメント管の布設替えを中心に実施をしている。上水道は、おおむね完了。簡易水道は、南上、蛇石、毛倉野地区に約8キロの石綿管が残っている。平成28年度までに、4、399mを予定している。

質問 一条、箕作線は。

町長 期成同盟会を立ち上げていきたい。

質問 町道にかかる橋梁の

町長 下水道の加入率を上げないことには、一般会計からの持ち出しがふえる。

上下水道課長 湊で約7割、手石で約5割、下賀茂では19.5%の加入率です。

質問 町長の地元は下水道加入率が一番低い。加入促進をしていただきたい。

町長 啓蒙活動一生懸命やりたいと思います。

観光産業の活性化

質問 みなみの桜まつりで道の駅、民間駐車場7カ所を観光協会の自主財源を確保する取り組みとして、駐車場の有料化が必要とした。町は、どういう要請を観光協会のほうになされたのか。

産業観光課長 問題がクリアできれば、ぜひ有料化に向けて検討してくださいと話をした。

質問 町として試算等はしてきているのか。

産業観光課長 観光協会の試算で約100万から150万の試算を出している。

質問 有料化で観光客は離れる。有料化により、減るものも試算してあるのか。

産業観光課長 お客が減らない対応をしていきたい。

質問 道の駅も有料化するという考えで町は指導しているのか。

産業観光課長 国土交通省指定を受けた道の駅は敷地内全部を有料できません。期間限定で有料化して財源確保に向けた取り組みをしてはと町から提案した。

質問 民間の借地も有料化は、地主は無料で町だから貸してあげた。商売なら土地代くださいと話が出てきても不思議ではない。逆に駐車場が減るんじゃないか。

産業観光課長 今後検討していかなければならない。

質問 石廊崎ジャングルパーク、公園管理を早速しなければいけない、考え等はあるのか。園地事業は。

企画調整課長 園地計画は町に継承する。10月以降、ワークショップ等で決定していききたい。

質問 公園管理をする。剪定、草刈は、町が買った段階で早速やらなければ。

町長 景観を損なう木、伐採は買い取った暁には即やっていきたい。

質問 県道からの取りつけ道路はどう考えるか。

企画調整課長 ワークシヨップ、利用計画、基本構想、実施計画をつくり、2、3年先になる。



みなみいず元気びと



ひまわりの会・ひだまりの会

南伊豆町通所型介護予防事業「ひまわりの会・ひだまりの会」では、高齢者の介護予防を目的として体操・工作・レクリエーション等を行っています。現在35名の方が参加されており、下小野高齢者センター・湊コミュニティセンターにてそれぞれ月2回ずつ開催しています。

会の中での運動・工作などの補助・食事づくり・送迎を地域のボランティアさんをお願いしていますが、旬の食材を使った心のこもった料理・温かい声かけが参加者さんにとっても喜ばれており、笑顔の絶えないにぎやかな会となっています。

高齢者の介護予防のお手伝いをして下さる方、大歓迎です。一緒に楽しい会を作ってくださいませんか？

問い合わせ先：南伊豆町健康福祉課 地域包括センター 電話62-6233

議会を聴きにきませんか

議会は町の予算や身近な問題などを話し合う大切な会議です。あなたも議会を傍聴してみませんか？

1年に4回の
定例会が開か
れます。

- 3月定例会（新年度の町会計の予算審議が主です）
- 6月定例会（町政の進捗状況の確認などです）
- 9月定例会（前年度の町会計の決算審議が主です）
- 12月定例会（町事業の進捗状況の確認などです）

手続きは当日、住所、氏名等の記載で傍聴できます。午前9時30分から開会します。

●お問い合わせは議会事務局へ TEL05558-62-6240



議会10メモ

討 論

「討論」とは現に議題になつてゐる案件に対して、自己の賛成又は反対の意見を表明することである。その目的は、自己の意見に反対する者及び賛否の意思を決めていない者を自己の意見に賛同させることにある。（議員必携より）

議会定例会で各議員が行う「一般質問」とは別に、役場当局から出される各議案に対して、各議員が賛成又は反対の意見を述べる場

面が「討論」である。「一般質問」の制限時間がわが町では60分であるのに対して、「討論」には時間制限が無いのが当町議会の現状であり、「一般質問」の延長戦と化してしまふことがある。自己の意見に賛同させるため「一般質問」の内容を引用することも方法のひとつではあるが、理由を明確にして簡潔にまとめた意見こそ、多くの賛同者を引き出す。本来の目的である「自己の意見に賛同させる」という結果にはつながらない「討論」は、有効な手段とは言えない。

勇往邁進（加）



インターネット上での「言論活動」は、新聞等の既存メディアとは比較にならない程の次元で活性化していく。暴論・極論・感情論の類いも多いが、仮に常識が普遍でないと考えれば、開かれたネット世界上での議論は、大いに意義深い。

とにかく硬直した思考基準が主流の行政・議会では、健全なる異端や門外漢の声等に、前進への可能性が侵されている事もある。権威の弱点は、慣例や前例の崇拜であつて、予期せぬ思考や新しい発想に拒絶反応を示す傾向がある。だからこそ、その弱点を克服し、開かれた行政、議会の確立のため、ネットメディア上での議論に目を配り、又配信していくのも、我々の仕事の一つでもある。

（吉）